



市長 谷口 太一郎

佐賀県

# 嬉野市



市章

※健康都市連合日本支部広報部会長

【嬉野市のデータ】(平成28年4月1日現在)

- ・人口： 27,150人
- ・世帯数： 9,850世帯
- ・面積： 126.41km<sup>2</sup>
- ・市の花：桜・藤
- ・市の木：茶
- ・特産物：お茶、温泉
- ・主なイベント  
九州フラフェス (10月)  
うれしのあったかまつり (2月)

## ●嬉野市の紹介

嬉野市は、佐賀県の南西部に位置し、126.41 k m<sup>2</sup>の総面積を有しています。塩田川沿いには、日本三大美肌の湯といわれる良質で高温の温泉資源を有し、その塩田川を中心に温泉旅館が市街地を形成しています。塩田川の下流にはのどかな田園風景が広がっており、米麦、施設園芸などが盛んに行われています。

また、澄んだ空気と清らかな水、霧深い山々に囲まれた地域特性を活かしたお茶が山の裾野で古くから栽培され、のどかな田園越しに広がる吉田山では窯業が盛んに営まれています。



嬉野温泉マスコット

「ゆつつらくん」

## ●嬉野市の風景



嬉野温泉公衆浴場シーボルトの湯



うれしの茶



伝建地区「塩田津」の街並み

## ●嬉野市の健康づくり

嬉野市は、平成11年に温泉地では初めて「健康保養都市」の指定を旧厚生省から受けたことで、かつての「湯治場」の復元を目指すこととなり、嬉野温泉公衆浴場「シーボルトの湯」の建設に至りました。今後は観光目的だけでなく、健康づくりとして豊かな自然環境や温泉を活かした温泉療法を全国に広め、中長期滞在の新たな温泉客の利用も見込まれています。

市では、「嬉野市健康総合計画」第1次基本方針を見直し、病気の早期発見や治療にとどまらず、生活習慣病の段階から発病を未然に防ぐ「一次予防」を重視した健康づくりを推進するという基本的な考え方に、ソーシャルキャピタルをはじめとする新たな視点を加え、個人レベルの生活習慣の改善の取り組みに加え、社会参加機会の増加や社会環境改善のための、より積極的な取り組みを推進しています。

行政の関わりとして、保健師が市民とできるかぎり対面し保健指導を行い、肝炎ウイルス健診などの各種健康診査、特定健康診査、後期高齢者健康診査で蓄積されたデータをもとに、極端に異常がある人には直接連絡をして再度健診を促しています。

市では、市民一人ひとりが自発的に健康づくりに取り組むことを促すため、7つの地域コミュニティが中心となって活動を行っています。久間地区では音楽に合わせてボールやベル、バルターといった用具を使用し、楽しくリズムカルに体を動かす3B体操を行っており、年齢や体力に合わせたストレッチ、持久力を高める運動、筋力運動、認知症予防のための運動など、目的に応じた運動効果が期待できます。このような活動の結果、嬉野市は県内で2年連続長寿市1位に輝き、全国でも上位に位置しています。



久間地区地域コミュニティ「3B体操」

### ●嬉野市における健康都市の特徴的な施策

嬉野市は、「人にやさしいまちづくり」として嬉野温泉街旅館を中心にユニバーサルデザイン（UD）を推進しています。約40件の温泉旅館のうち13件の施設で車いす利用できるトイレやスロープ、手すりが配備された客室を備えています。



温泉旅館UD客室

UD化は、佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターが推進役として事業を行い、市や観光協会など連携・協力を行いながら温泉地全体のバリアフリー化をハード・ソフト両面で進めています。UD客室やヘルパーによる入浴介助、UD浴衣の開発など数々の実績を上げ、これまで温泉旅行を諦めていた人々の受け入れを可能にした功績により、平成26年に第8回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰を受賞しました。



ヘルパーによる温泉入浴介助

### ●新たな健康都市像を目指して

嬉野市は、今後九州新幹線西九州ルート開通や駅の建設、国立病院機構嬉野医療センターの移設などに伴い、健康政策を市外に大きく打ち出す好機が訪れます。観光のみならず、健康都市としての役割を十分に果たすために、市民一丸となった健康づくりのための取り組みを行っていきます。

平成27年度には、嬉野温泉の公式ゆるキャラの動きをイメージさせる「ゆっつらくん健康体操」を、市と連携協定を締結している佐賀女子短期大学に依頼し制作しました。現在、介護施設や、地区のイベントでの準備体操など様々なところでこの健康体操が活用されています。市民の健康増進と市民意識の一体化のために今後も更なる普及を行っていきます。



「ゆっつらくん健康体操」

平成27年11月には「第3回全国健康都市めぐり in 嬉野市」をNGO健康都市活動支援機構と共同で開催し、テーマを「ユニバーサルスポーツ」と掲げ、パラリンピック正式種目であるボッチャの競技を盛り込みました。今大会で、ユニバーサルスポーツを通じた「健康都市・うれしの」の取り組みを、市民をはじめ全国、さらに2020年パラリンピック東京大会に向けて広く発信することができたと考えています。